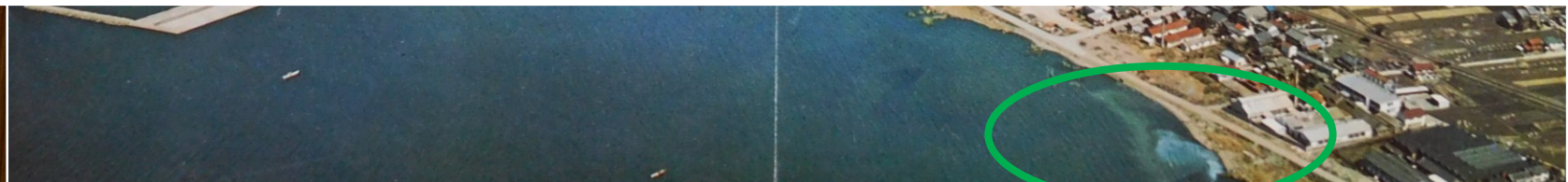


地域の米川への 地域の関わりについて

－水質で見る米川のこの50年－





2023年12月9日

BODで見る米川のこの50年

公害行政激動期

公害行政安定期・環境行政摸索期

環境行政拡大期

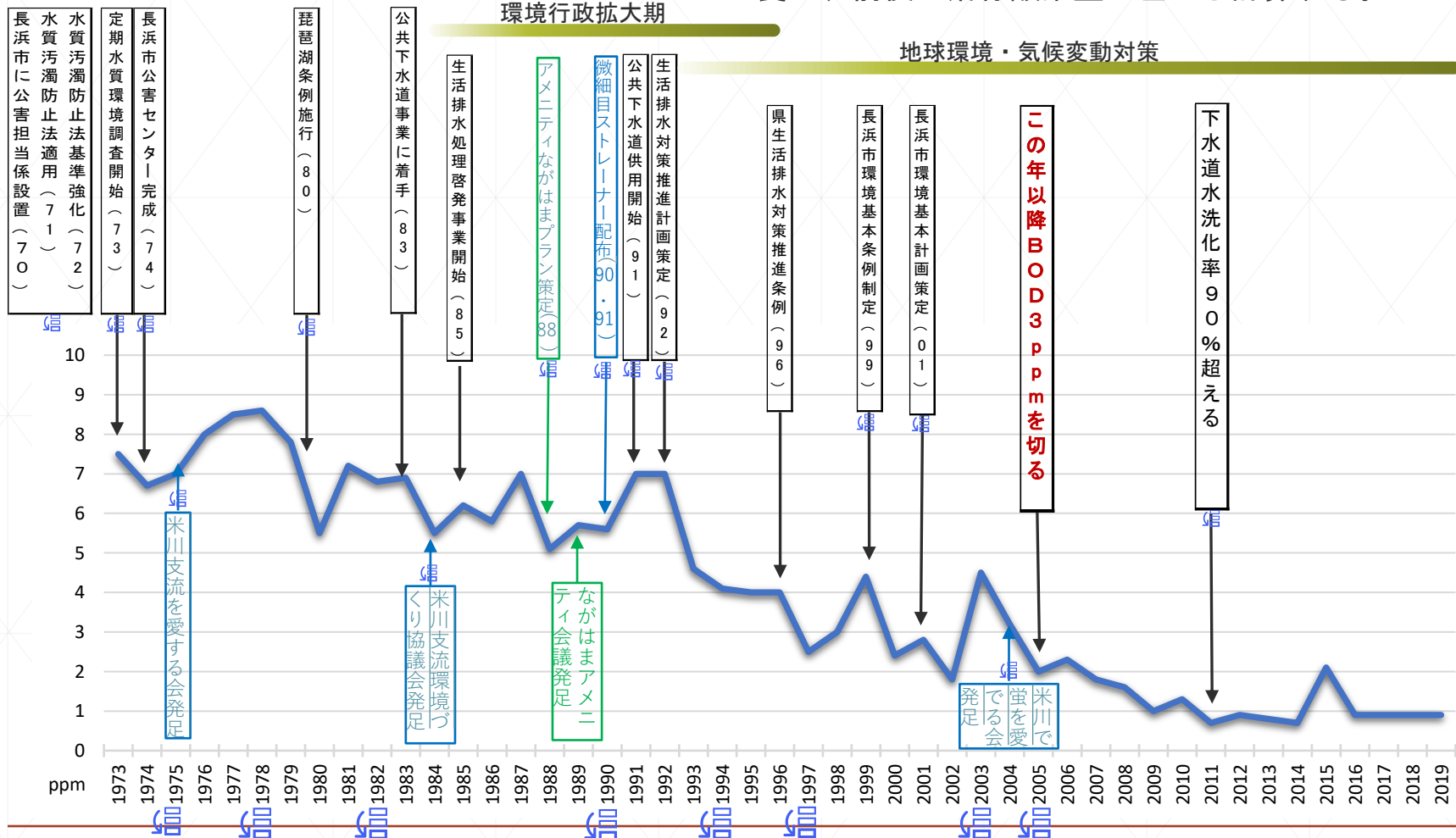
地球環境・気候変動対策

BOD(生物化学的酸素要求量 : biochemical oxygen demand)

水中の有機物などの量を、その酸化分解のために微生物が必要とする酸素の量で表したものです。

JISに定められている方法

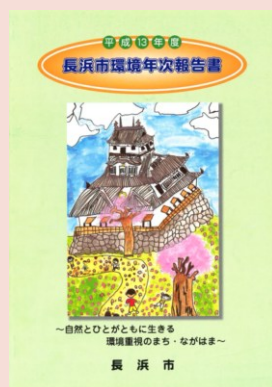
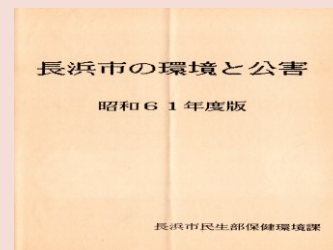
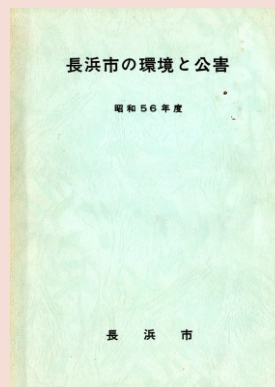
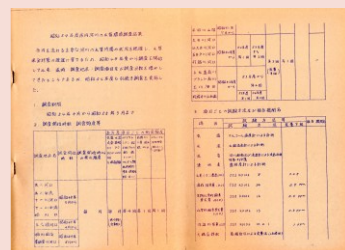
20±1℃の遮光した恒温器または恒温槽内で5日間培養し、前後の溶存酸素量の差から計算する。



長浜市の環境調査

- 昭和45年10月に公害対策係が設置され、長浜市の公害対策が本格的にスタートしました。
- 水質の簡易測定器等を購入し、工場排水の調査や河川の調査を開始しました。
- 48年5月から、大気や水質の環境調査を毎月実施するようになりました。
- 最初は委託分析でした。
- 以来50年にわたり調査が継続されています。

調査報告書の変遷



長浜市の水質調査

市でも独自の分析機関を整備することが急務となってきました。このため、市役所別館の新築にあわせ、この中に公害センターとして検査室を設置することとなり、49年3月にこれが完成し4月からこの中で監視測定を開始しました。



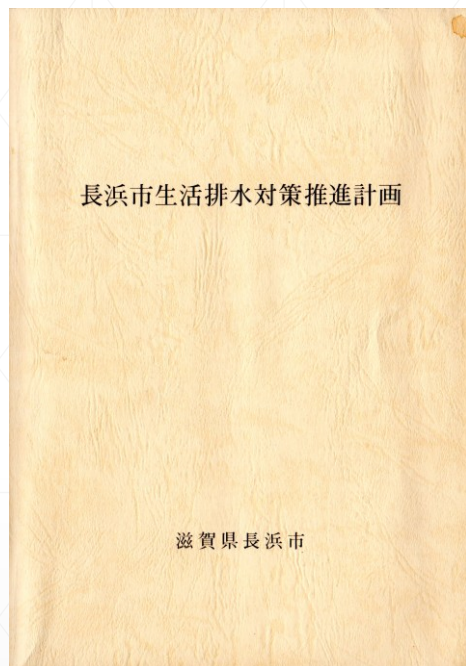
水質測定機器の整備状況

水素イオン濃度計	直示天秤	S S 戸過器
溶存酸素計	上皿天秤	スターラー
分光光度計	高圧滅菌器	蒸留水製造器
原子吸光光度計	ふらん器	実験台・流し台
シアン蒸留装置	電気定温乾燥器	ドラフト
水蒸気蒸留装置	恒温水槽	乾燥台
総窒素蒸留装置	恒温槽	薬品器具庫
自動採水器	電気水浴	冷蔵庫
採泥器	ホットプレート	ガス易沸器
流速計	シェーカー	排水処理装置

公害センターでの55年度水質測定実施状況

測定項目	処理検体数	測定項目	処理検体数
水素イオン濃度	142	総リン	163
生物化学的酸素要求量	142	メチレンブルー活性物質	144
化学的酸素要求量	181	カドミウム	58
溶存酸素量	124	鉛	58
浮遊物質	143	シアン	60
大腸菌群数	124	総クロム	58
ケルダール窒素	144	総鉄	58
亜硝酸性窒素	105	総マンガン	58
硝酸性窒素	106	銅	58

生活排水対策推進計画



水質汚濁防止法に基づき、
平成4年3月策定

目標水質 『魚とりのできる川』

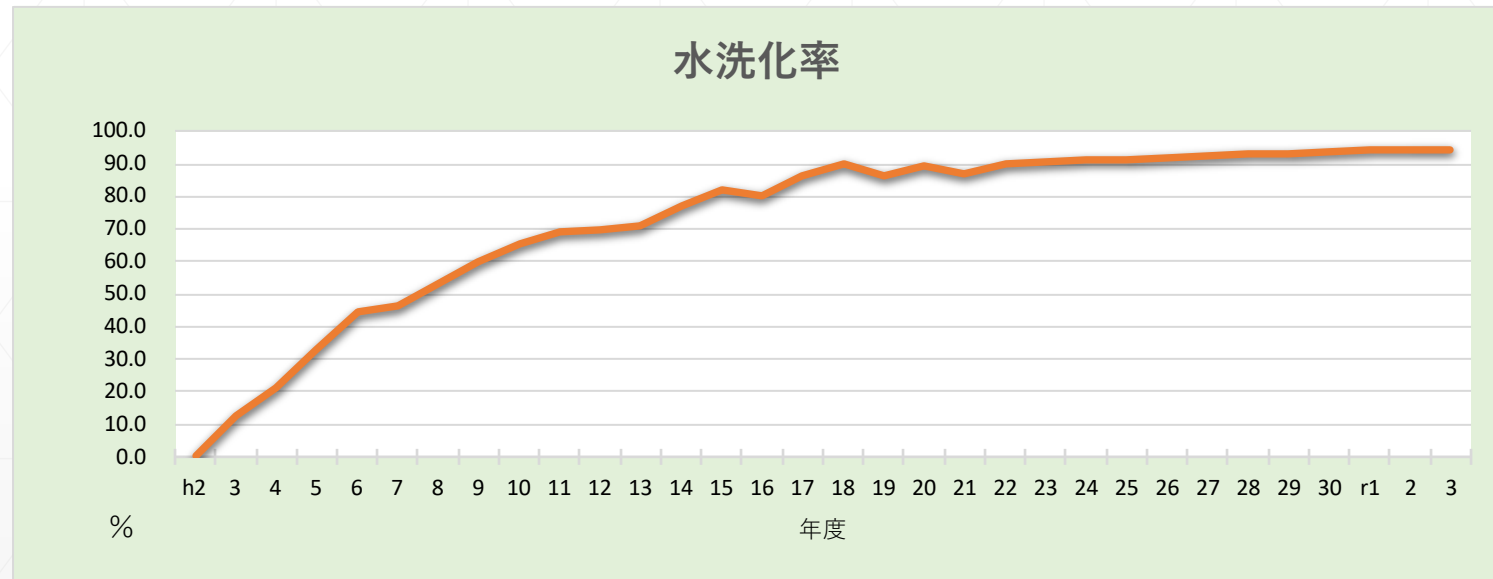
目標年次 西暦2000年

- 単に水質の改善だけにとどまらず、魚が繁殖しながら生息し、子供たちが安全に川に近づき、安心して水とふれあうことのできる川を蘇らせることとします。
- これらは、アユの水産基準や水浴場の基準などにより、少なくともBOD 3 ppmが確保されるように、また、現状でそれ以下のところは現状を確保することを目標にしています。
 - (ア) 人口密集地域における公共下水道の早期整備を図る。
 - (イ) 農業集落排水処理施設の予定処理区域の早期整備を図る。
 - (ウ) (ア) (イ) 以外の地域においては合併処理浄化槽の設置を推進する。
 - (エ) し尿くみ取りまたは単独浄化槽設置家庭に、台所排水処理槽の設置を指導する。

長浜市の下水道

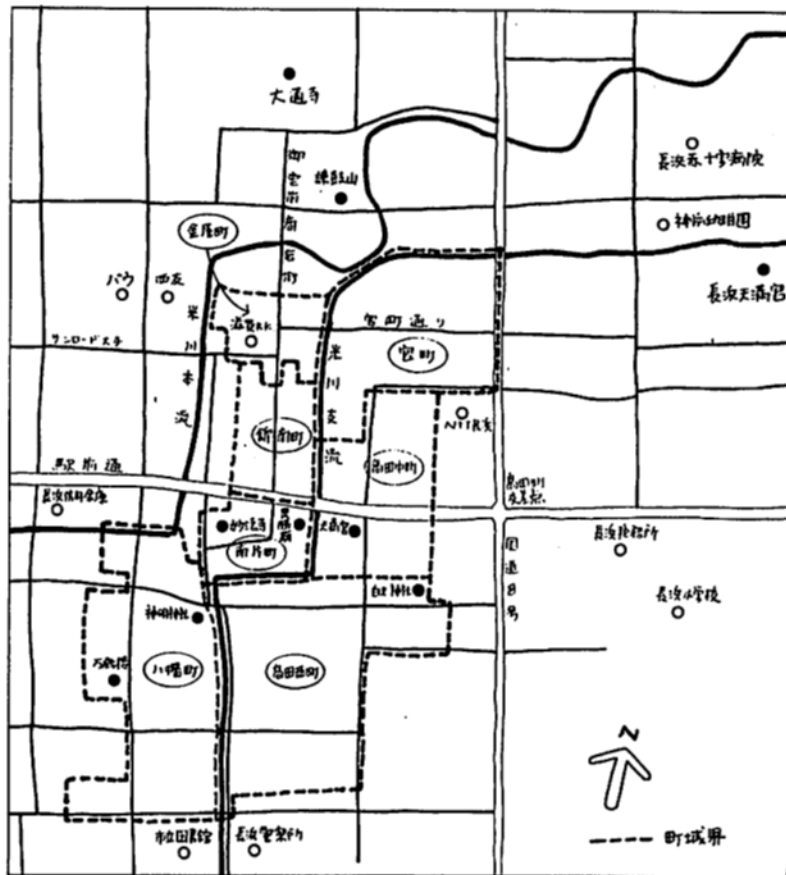


長浜市の下水道整備は、昭和57年より着手し、平成3年から順次供用を開始し、平成19年をもって概ね全域の整備が完了しています。主たる経営は「施設の建設」から「施設の維持管理」に移行しており、今後は「施設の改築更新」に対応していく必要があります。



出典 H 3～H10：広報ながはま 平成11年8月号 H11～H15：平成16年度 長浜市環境年次報告書
H16～H20：平成21年度 長浜市環境年次報告書 H21～H25：平成26年度 長浜市環境年次報告書
H26～H30：令和元年度 長浜市環境年次報告書 R1～R3：長浜市統計書 令和3年度版

米川支流を愛する会 昭和50年（1975年）6月発足

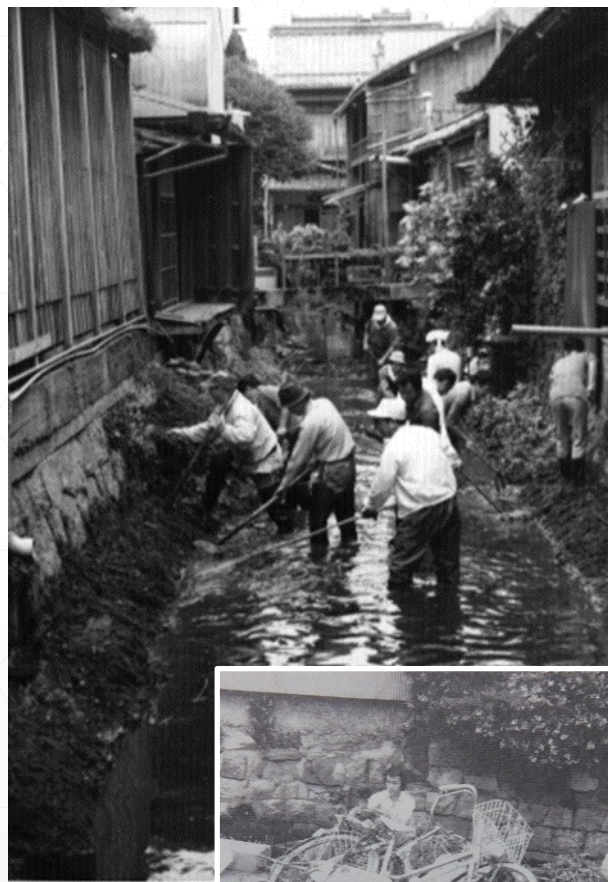


米川支流がヘドロ、ゴミ、濁水悪臭に犯されたドブ川に、また、人の嫌がる下水の放出路に変貌し、市内で一番汚い川の烙印（らくいん）を押されたのは今から12、3年も前でした。

かつて、この川沿い7ヶ町に住む人たちは父祖の代から川がもたらす自然の恵みのなかに暮らしがありましたし、また、子供たちは慈母のような自然の愛情のなかに育まれ成長していきました。この大切な宝のような川がなぜこんな姿になったのか、だれがこんなに汚くしてしまったのか、識者はこう説明しています。それは、国民経済の高度成長がもたらした歪みであって、急激な都市化によって自然が破壊され、また、国民生活環境の大変動が個人の暮らしを高度化し、その反面生活污水などについて無関心にしてしまったため…。この説明を受けて川筋の人たちは暮らしの高度化、物の豊かさに馴れ享受しっぱなしで当然自分たちのなすべき責任を怠っていたことに気付き、川を昔の美しく豊かな米川支流に返そうと、「米川支流を愛する会」を7ヶ町住民全員参加の旗印の下に結成しました。

昭和61年3月「よみがえれ米川支流」片野会長巻頭言より

米川支流を愛する会 一斉清掃



以来、毎年季節に合わせて2、3回と一斉清掃を行ってきました。時には清掃のあと、下流から大小いろいろな魚の群れが川を遡上（そじょう）してきて、魚が帰って来たと大喜びしたことも何度かありましたが、しかし、あんなに多くの魚が帰って来たのに、その翌朝の川面に魚影は一つもなくなっていたのです。あの魚の群れは幻だったのか、よく見ますと大清掃をしたというのに川の中は依然としてヘドロがびっしり、水の濁りは時がたつほどに濃く、その上汚水のバロメーターとも言われる醜悪な微生物がうごめいているのです。これでは魚が落ち着いてくれる筈ありません。多くの住民が泥んこになっての大清掃も、その成果は期待できないことを知らされました。

昭和61年3月「よみがえれ米川支流」片野会長巻頭言より

米川支流環境づくり協議会が結成 昭和59年（1984年11月）



私たちは何か間違いをしているのでないか、私は川面を見つめ考え込む日が多くなりました。そして数日後、やっと思いあたることを見つけました。それは私たちの今日までの行動はいわば場当りのな清掃一辺倒でしかなかった、それ以前になさねばならなかったこと、即ち川を真に生き返らすための基本的な汚染源の調査研究、そこに得られたデータに基づく行動があつてこそその目的達成への道が拓けるということです。私は目の前が明るくなりました。幸いにも目的達成への軌道修正に県、市の力強い協力が得られ、59年11月愛する会を母体に米川支流環境づくり協議会が結成

昭和61年3月「よみがえれ米川支流」片野会長巻頭言より

米川支流環境づくり協議会活動記録 (1)

[illegible]

米川支流環境づくり協議会活動記録 (2)

活動内容	昭和63年												平成1年												平成2年												平成3年												平成4年					
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3												
	ング実施「米川支流の源流を探ねて」開催			●夏休みイベント「米川支流環境づくりフェスティバル パート4」開催																																				●湖北アメニティ探														
	ティバル パート3」開催															●湖北アメニティ探訪パート1（中山道柏原宿・醒ヶ井） ●湖北アメニティ探訪パート2（高月町雨森） ●湖北アメニティ探訪パート3（醒ヶ井養鱒場） ●湖北アメニティ探訪パート4（湖北クリーンアップ）																																						
実践活動	蒲などの水生植物を植栽 米川支流景観整備事業第2工区部分に水生植物植栽 パトロール ●河川パトロール												●河川パトロール ●河川パトロール ●河川パトロール ●河川パトロール ●葛蒲の補植 ●河川パトロール ●どんどん橋欄干ペンキ塗 ●河川パトロール ●河川パトロール ●土山町水環境を守る生活推進協議会視察												●河川パトロール・全体会議 ●河川パトロール・葛蒲株分け ●河川パトロール・全体会議 ●河川パトロール												●河川パトロール																	
視察等	議会視察 ●草津市視察																											●愛知県稲武町衛生委員視察 ●甲西町下田連合区役員視察												●彦根市環境審議会視察												●E		
発表等	法施行15周年記念パネルディスカッション」において片野会長事例発表（東京） ちづくり住民のつどい」												●「しがの河川環境づくりシンポジウム」で活動報告 ●第10回快適環境シンポジウムで服部会長「事例発表」																								●湖北																	
表彰等													●国土庁表彰「博物館都市構想を進める7団体」																																									
ニュース	号発行 第12号発行			●米川ニュース第13号発行 ●米川ニュース第14号発行 ●米川ニュース第15号発行 ●米川ニュース第16号発行												●米川ニュース第17号発行 ●米川ニュース第18号発行 ●米川ニュース第19号発行												●米川ニュース第20号発行																										
取材													●映画取材「作ってみようアメニティマップ」「排水路マップ」づくり作業シーンに会員出演 ●NHK630取材																																									
講習会等	備に対する提言 講習会 ●「米川支流の現状を見て歩く会」の開催			●「石けんを考える集い」の開催																																																		
その他	整備 工事 決定成			●長浜市環境審議会委員に沢尾事務局長委嘱される ●役員改選服部氏会長就任（片野前会長逝去のため）																																																		

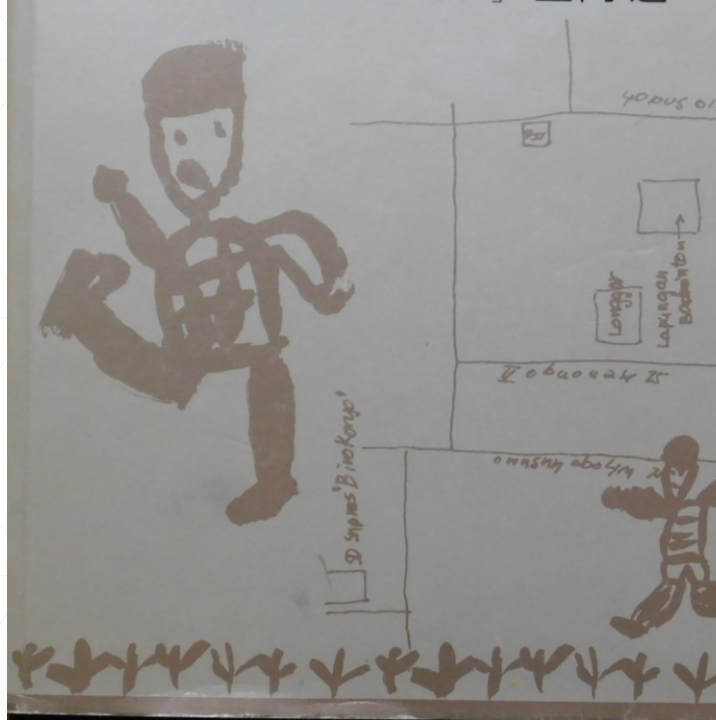
米川支流環境づくり協議会活動記録 (3)

活動内容	平成4年												平成5年												平成6年												平成7年											
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12									
	●湖北アメニティ探訪パート5（下水処理場）												●湖北アメニティ探訪パート6（八幡堀・安土） ●イベント『川とあそぼう』開催												●イベント『川とあそぼう』開催												●イベント『川とあそぼう』開催											
実践活動	養鱒場） ト4（湖北グリーンラント） ●河川パトロール												●河川パトロール ●「虹の会」紫陽花八幡宮植栽参加 ●米川支流一斉清掃 ●河川パトロール ●河川パトロール ●高水敷に菖蒲の補植 ●河川パトロール ●米川支流一斉清掃 ●高水敷き清掃												●河川パトロール ●河川パトロール ●米川支流一斉清掃 ●河川パトロール ●河川パトロール ●河川パトロール ●啓発看板たて ●河川パトロール ●米川支流一斉清掃 ●河川パトロール ●河川パトロール																							
視察等	●甲西町菩提寺区民視察 ●大野市環境保全審議会委員視察 多根市環境審議会視察												●大津市河川愛護団体連合会視察 ●小松市環境問題調査団視察 ●今津県事務所管内町村水環境協議会視察 ●草津市水環境を守る市民会議視察 ●瀬戸市水野まちづくり協議会視察																																			
発表等	●湖北ネーチャランドツワー参加と懇親会 ●長浜青年会議所主催「湖北フォーラム'92」に参加												●草津市「ごみと水環境を考えるつどい」報告																																			
表彰等	●河川事業功労団体感謝状授賞												●びわ湖会議「水環境シンポジウム」報告																																			
ニュース	●米川ニュース第20号発行 ●米川ニュース第19号発行												●米川ニュース第21号発行												●米川ニュース第22号発行												●米川ニュース第23号発行											
取材	●日経新聞取材 ●BBCテレビ取材（菖蒲の補植作業）																																															
講習会等																																																
その他													●びわ銀水とみどりの財団助成決定																																			

身近な環境づくり

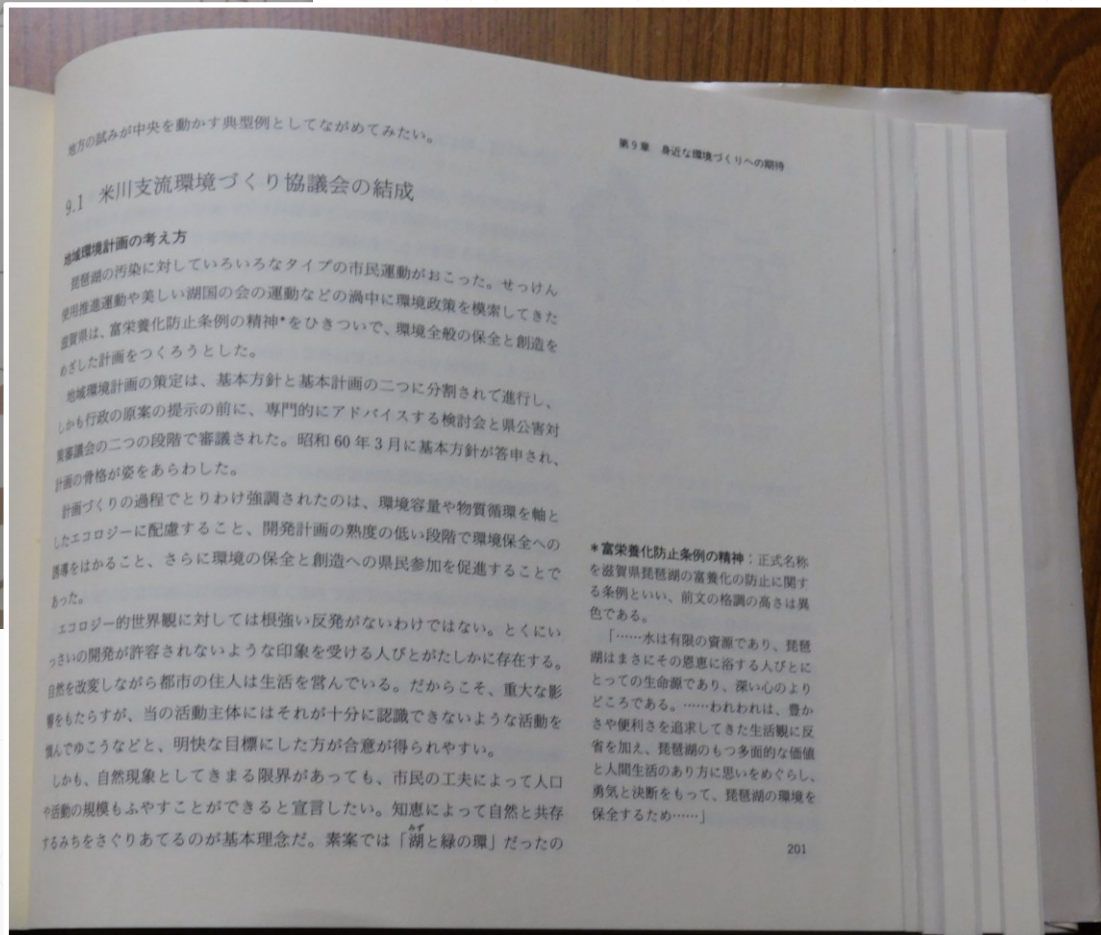
〔環境家計簿と環境カルテ〕 盛岡 通

日本評論社

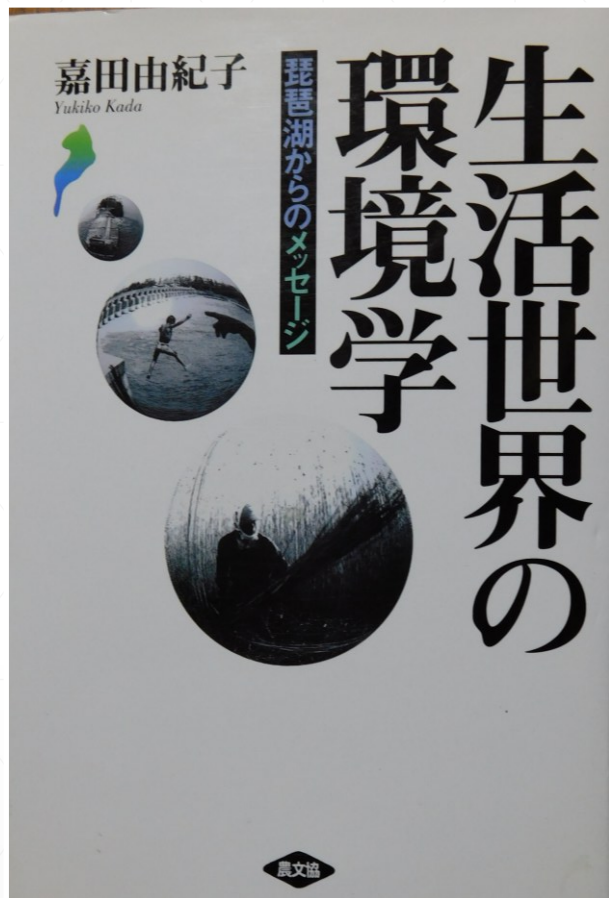


米川支流環境づくり協議会の活動を紹介した書籍

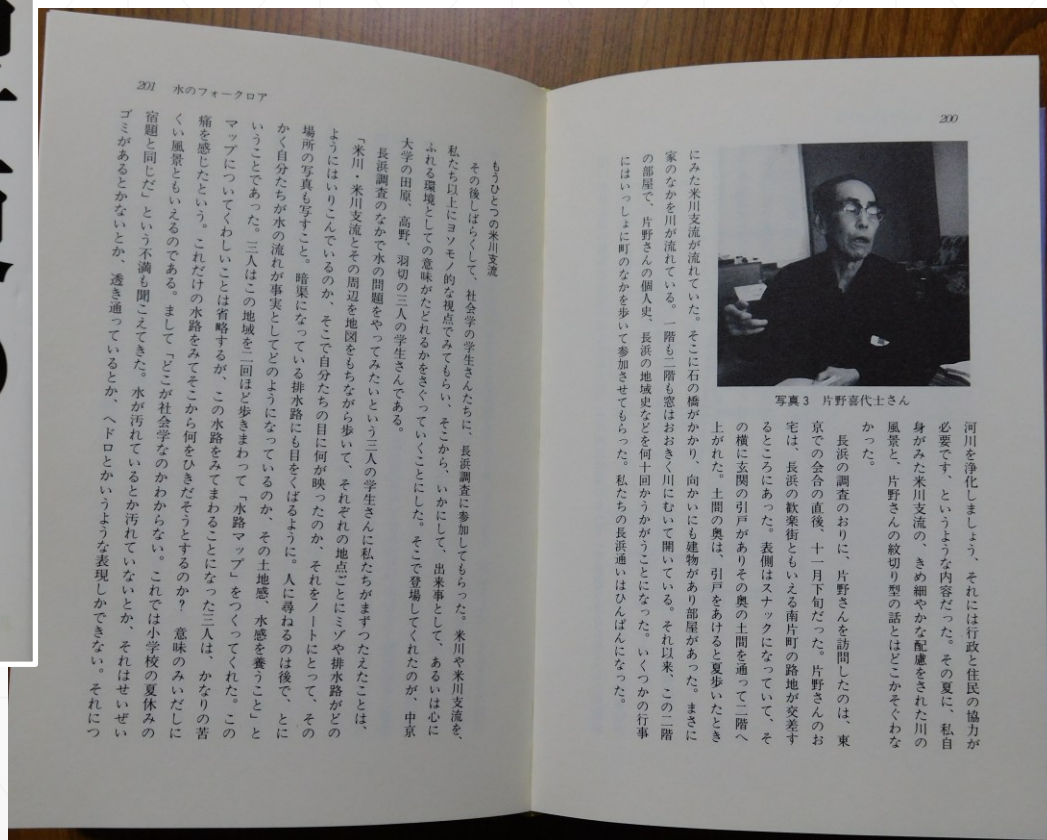
「身近な環境づくり ―環境家計簿と環境カルテ―
1986年9月15日 盛岡通著 日本評論社 P199～P228



片野喜代士さんのインタビュー記録も 掲載された書籍



生活世界の環境学 ―琵琶湖からのメッセージ―
1995年5月31日 嘉田由紀子著 農山漁村文化協会
P191～P216



片野喜代士さん逝く 平成2年（1990年6月）

長浜市史

第五巻 暮らしと生業

（第5回配本 平成十三年三月）

もうひとつの曳山

―片野喜代士さんと米川支流―

嘉田 由紀子

長浜の「米川支流を愛する会」の片野喜代士さんには、出て出会ったのは東京だった。昭和六十二年（一九八七）の一月十五日、環境庁主催の「水質汚濁防止法十五周年記念シンポジウム」の会場だった。片野さんは米川支流の活動中により環境庁長官賞を受けられた。その席上での片野さんあいさつはいわゆる紋切り型だった。琵琶湖を浄化するかに行政と住民が協力しよう、というような内容だった。私たちは、昭和五十七年（一九八二）から、琵琶湖周辺

目次

もうひとつの曳山……… 嘉田 由紀子	1
―片野喜代士さんと米川支流―	
ビロードづくり……… 浅井脩さんに聞く―	6
執筆者紹介………	8

人と環境のかかわりを価値観の変遷からとらえたいと研究をつづけていた。湖岸をまわりながら、時どき通りすぎる長浜がずっとなんか違っていった。そこで昭和六十二年夏から、研究仲間や学生さんをさそって長浜に通いはじめていた。東京での出会いの直後、私たちは片野さんを長浜市の歓楽街ともいえる南片町（大宮町）の自宅に訪問した。表側にはス



平成二年の六月上旬、米川支流の脇にすんでおられた飯田志加恵さんから、ホタルを米川でみた、という知らせをうけた。その確認のため、急ぎ長浜にむかおうとした。その時、届いた知らせは、片野さんの突然のご逝去だった。

そのあと、片野さんが語ってくださいしたお話を反すうしながら、私自身は、あるひとつの暗示のようないひらめきをもった。

「片野さんにとっての曳山（ほこり）は米川支流だったのではないか。そのことが片野さんの川の活動に対する隠された動機ではなかったか」

（長浜市史第5巻 巻報より）

米川で蛍を愛でる会

長浜市の旧市街地を流れる米川に蛍を取り戻そうと始まった活動です。

会の発足 : 2004 年11月

会員数 : 10人

活動エリア: 米川・八幡川

年間活動 : 産卵(6月)⇒

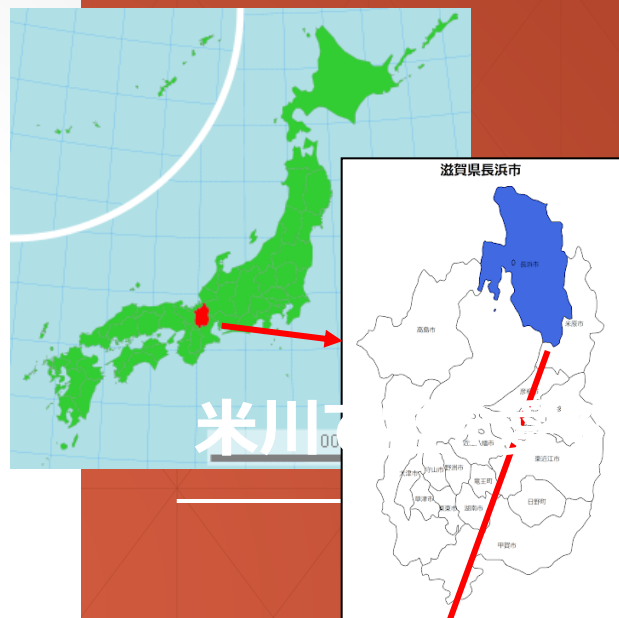
蛍小屋で幼虫飼育⇒

幼虫放流(3月)⇒

蛍観賞会(6月)

ホタルのつがい採集(6月)

産卵⇒





昭和46年（1971）



8月1日号



7月15日号

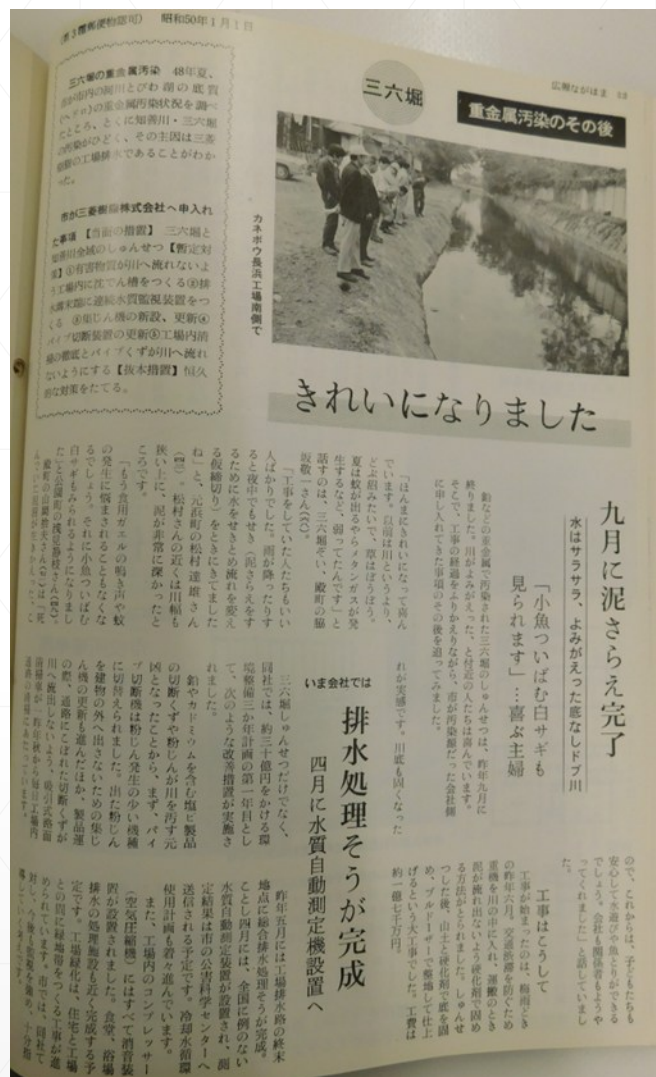


5月15日号

昭和50年（1975）



8月1日号



1月1日号

昭和50年（1975）



7月1日号

8月1日号

第2回 米川フォーラム 次世代と考える、どうする米川！

2023年12月9日



昭和51年・52年（1976・1977）



カメラルボ



誰か



武村知事も参加。漁船のゴミを収集車へ

てないよう心がけないと、せっかくの清掃も水のあわ。ひとつびわ湖が荒れると、また大量のゴミが湖岸に打ち上げられます。

お盆のゴミ収集

八月十五日、お盆の日のゴミの収集は次のとおりです。御協力ください（十四日は通常通り）。

■燃えるゴミ：週一回収集の町と持ち込みは受けつけますが、週二回収集の町の回収は中止します。

■燃えないゴミ：収集も持ち込みも中止します。

夏休み湖上勉強会

が主催。くわしくは同時配布のチラシを御覧ください。



びわ湖の底は
ゴミだらけ

昭和51年8月1日号

ふえる大腸菌、各河川ともうようよ

50年度公害
調査結果

家庭排水で汚れる湖

北湖でも富栄養化が進行

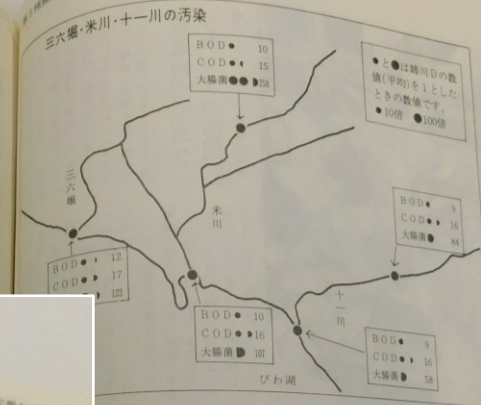
などは、最も多い。BOD、CODの九倍から七倍。BOD、CODは、水中の有機物が酸化されたり、微生物によって分解されたりする時に消される酸素量で、汚れ具合のほどは、高くなります。重金屬類とは、かなり定量限界以下。または環境基準以下ですが、大津川は三河川よりようよう。横ばいどころか、ふよふよける一方で。百ccの水の中に、十リ川では、河口で三十八万個、二十六万個、三六堀河口は、三十八万個、米川では河口で三十万個、中流では更に、八十万個

量は漁に出たり、びわ湖でそれです。つて飲んだり、とすーんとそれをくすみて、もうろが、杯です。よ。一朝日朝日漁業を営む大津、重雄さん(音)。汚れのない十川川流に、住むのだが、子供の頃は川で遊んで洗って、いたんです。ところが今では、じよろの口に綿くすみに、ものがつまると、植木に水もたれません」ともいう。

びわ湖の汚染で、今最も問題になっているのが家庭排水。「かか家庭排水くらい」と考えがで

大津市や草津市などの南湖では、早くから富栄養化現象が生じてきた。みながら、北湖でも、四十九頃から、れるようになりまし

色の水や、水温の変化に強い、カタチなどの大量発生、冷水水もアユやウグイなどの減少が、富栄養化しつつあることを示してい



昭和51年8月1日（第3種郵便物認可）

保守点検を十分
きびしくなった

まつり
5日・湖上花火

· 儿水

川へゴミを捨てないで...

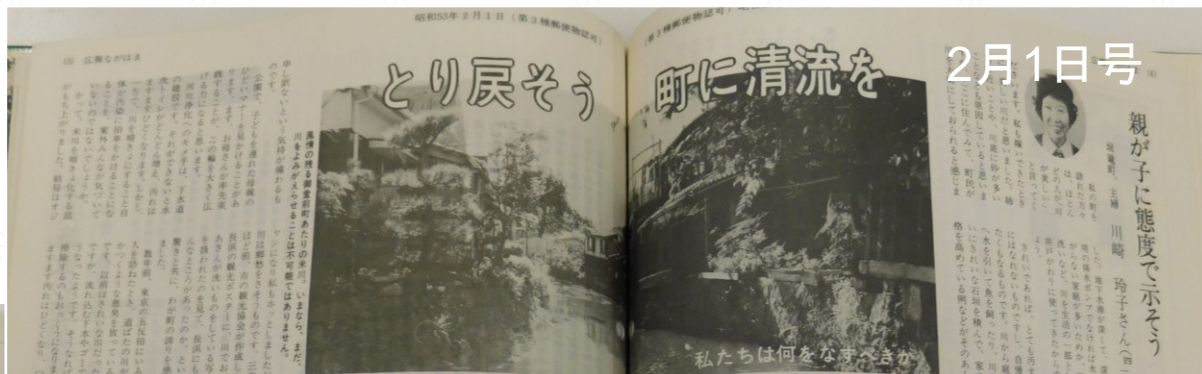
7月1日、800人が湖岸を清掃

昭和51年8月

昭和52年8月1日号

昭和53年（1978）

2月1日号



3月1日号



3月1日号

昭和55年（1980）

（第3種郵便物認可）昭和55年7月1日

あなたの実びわ湖浄化の第一歩！

びわ湖 富栄養化 防止条例 7月1日施行

美しい湖を次代へ
びわ湖を病気にさせたのは私たち

毎日のように各種団体を通じてびわ湖富栄養化の問題は、他人ごとなどではなくて、私たち自身の手で解決しなければならぬ。富栄養化防止条例の施行により、びわ湖の水質が改善され、美しい湖を次代へ残すことができる。この条例は、びわ湖の水質を改善するための第一歩である。私たち一人ひとりが、この条例を遵守し、びわ湖の浄化に貢献しよう。

汚れの発生源は
家庭・工場から

びわ湖に流入する窒素・リンの発生量

びわ湖の水質汚濁の原因は、主に家庭・工場からの排水による窒素・リンの流入である。この図は、びわ湖に流入する窒素・リンの発生量を示している。家庭からの発生量は、全体の約70%を占めている。工場からの発生量は、全体の約30%を占めている。このように、家庭からの排水が、びわ湖の水質汚濁の主要な原因となっている。したがって、家庭からの排水を適切に処理し、窒素・リンの流入を削減することが、びわ湖の浄化のために不可欠である。

びわ湖の現状
四年続きの赤潮

赤潮は、海水の富栄養化によって発生する。びわ湖の水質汚濁が、赤潮の発生原因となっている。赤潮は、湖の水を赤く染め、魚類の死滅を引き起こす。このように、赤潮は、びわ湖の生態系に深刻な影響を与えている。したがって、赤潮の発生を防止するためには、湖の水質を改善することが不可欠である。

2千人が参加の体力づくり大パレード

米川をいっせいで清掃

市街地の中央部を流れる米川と、その支流の清掃が六月十五日、いっせいで行われ、びわ湖の水質改善に貢献した。この清掃活動は、市民の参加が盛んで、多くのゴミが回収された。このように、市民の協力による清掃活動は、湖の水質改善に重要な役割を果たしている。

7月1日号

七月一日施行
びわ湖富栄養化防止条例

美しい湖を次代へ
びわ湖を病気にさせたのは私たち

毎日のように各種団体を通じてびわ湖富栄養化の問題は、他人ごとなどではなくて、私たち自身の手で解決しなければならぬ。富栄養化防止条例の施行により、びわ湖の水質が改善され、美しい湖を次代へ残すことができる。この条例は、びわ湖の水質を改善するための第一歩である。私たち一人ひとりが、この条例を遵守し、びわ湖の浄化に貢献しよう。

粉石けんでもこんなに白くなります

成功させよう びわこ国体

6月

夏季大会：水球、秋季大会：軟式野球、弓道

広報ながはま

昭和55年4月27日第3種郵便物認可/毎月1日発行/1部5円

◆今人の動き
(昭和55年5月1日現在) 人口 55,268人 男 26,709人 女 28,559人 世帯数 15,196
(4月中の異動) 転入 345人 転出 314人 出生 52人 死亡 35人 結婚38件
No.359/昭和55年6月1日発行 *全戸配布 *発行/長浜市役所 *編集/総務部企画課広報係 *定価4111

6月1日号

昭和57年・58年・60年 (1982・1983・1985)



昭和57年7月1日号

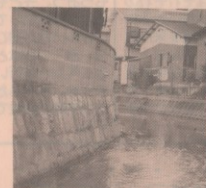


昭和58年8月1日号

昭和60年9月1日号

昭和63年
(1988)

友情



昔人は川と接して暮らしてきた
川に面して張り出す出窓やかわどい
今川に背を向け暮らす人が多い
市街地を流れる米川
八月、源流まで川の中を歩いてみた
わすか、九キロ
源流から流れる水は
行く先々で、その表情を変えた
人と顔を会わせながら
ゆたうと流れる川
人の背ばかりを見ながら
黙々と流れる川

人と出会うことも知らず
木々の緑の間を小踊りながら流れる川
川の表情は人がつくる
それは私たちの棲みか次第
ふりかえるとき
今ならまにあうのでは…

アメニティニュース



賑わい、それはアメニティながはま

学校通りの高校生、若いカップル、子どもを連れて若い夫婦、中年の婦人のグループ、孫を連れておじいさん…。みんなが集まる新しい街。
「何が、見られるのでは、聞けるのでは、できるのでは…」「何が素敵なものに、出会うのでは、楽しめるのでは…」
そんな期待をもって集まる場所。そこには、情報があり、夢があり、刺激があり、素敵なものがある。そこには、「賑わい」がある。

かつては、城下に、お寺の門前に人々は集まった。それは『いち』。『店』となり、『町』となって人々を集め続けた。
それは、町衆に富と心意気をもたらした、曳山のような町衆文化を花開かせた。そして今、町衆文化が『賑わい』を取り戻そうとしている。
それぞれの『賑わい』が結びだす『賑わい』。
これもまた『アメニティながはま』なのではないでしょうか。

《表紙の絵》 たたら横近影 画：小野信吾 VOL.8 1988/9/14

米川



昔人は川と接して暮らしてきた
川に面して張り出す出窓やかわどい
今川に背を向け暮らす人が多い
市街地を流れる米川
八月、源流まで川の中を歩いてみた
わすか、九キロ
源流から流れる水は
行く先々で、その表情を変えた
人と顔を会わせながら
ゆたうと流れる川
人の背ばかりを見ながら
黙々と流れる川

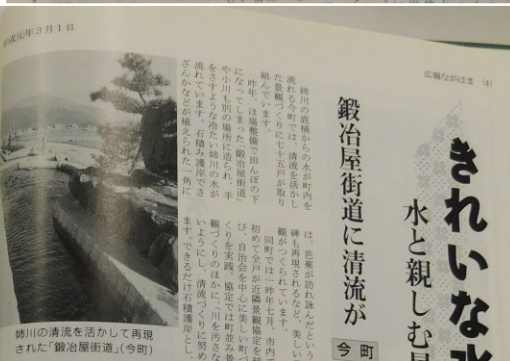
人と出会うことも知らず
木々の緑の間を小踊りながら流れる川
川の表情は人がつくる
それは私たちの棲みか次第
ふりかえるとき
今ならまにあうのでは…

第2回 米川フォーラム 次世代と考える、どうする米川！

第2回 米川フォーラム 次世代と考える、どうする米川！



平成元年 (1989)



3月1日号

平成2年（1990）（1）



7月 清流をとり戻したい
米川沿いの人たちが一斉清掃

広報ながはま
毎月1回1日発行・1冊30円

ねんりんピック'90
第3回全国健康福祉祭びわこ大会

軟式庭球交流大会（市民庭球場）

市人の動き（平成2年6月1日現在）
（5月中の異動）

人口	男	女
55,566人	26,921人	28,645人
転入 130人	転出 181人	出生 54人
		死亡 38人

※480/平成2年7月1日発行 ※全戸配布 ※発行/長浜市役所（滋賀県長浜市高田町12-34） ※編集/長浜市企画課

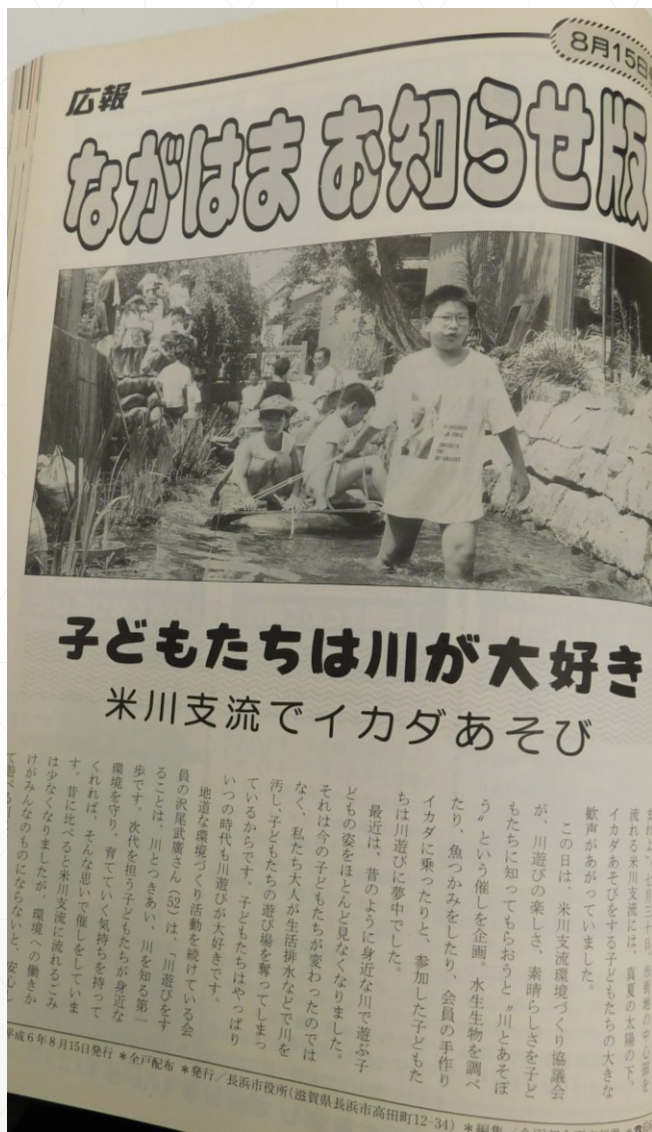
街の近代化と共に、昔の清流を取り戻す。米川沿いの人たちが一斉清掃に取り組み、十数年前。今年も恒例の六月清掃に参加した六百人が、水辺の街の再生に力を注いでいました。

7月1日号

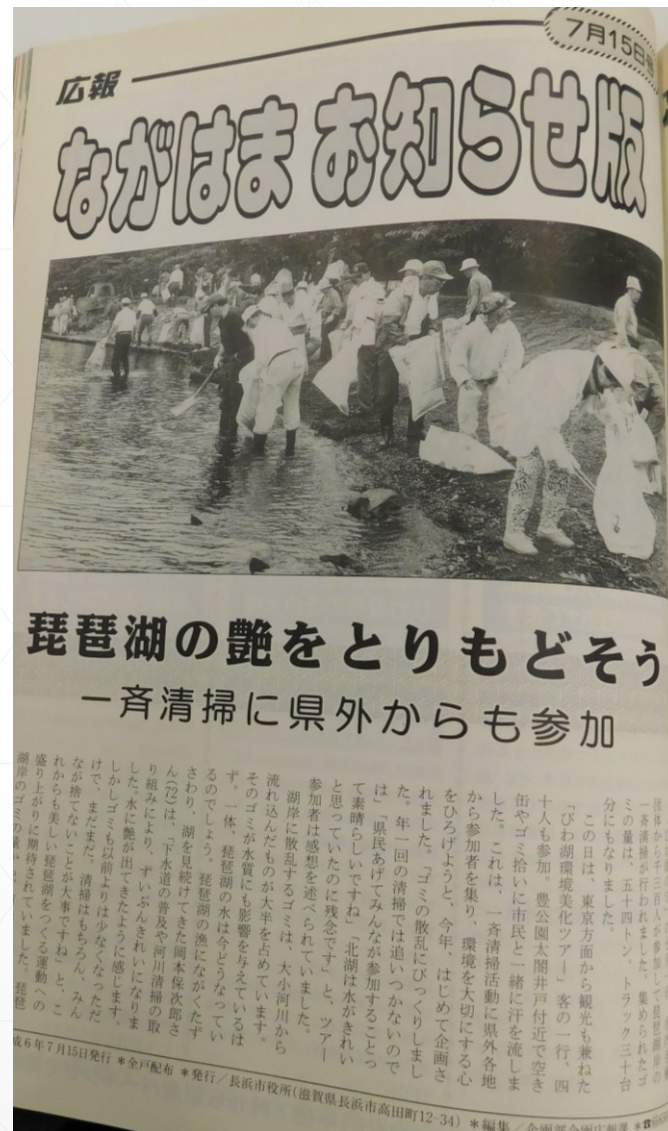


11月1日号

平成6年（1994）

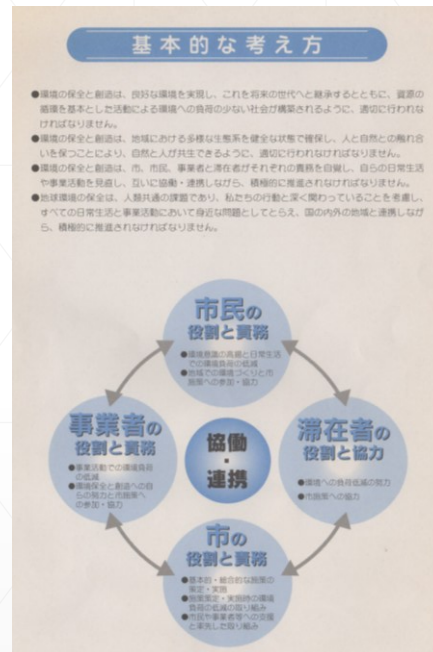
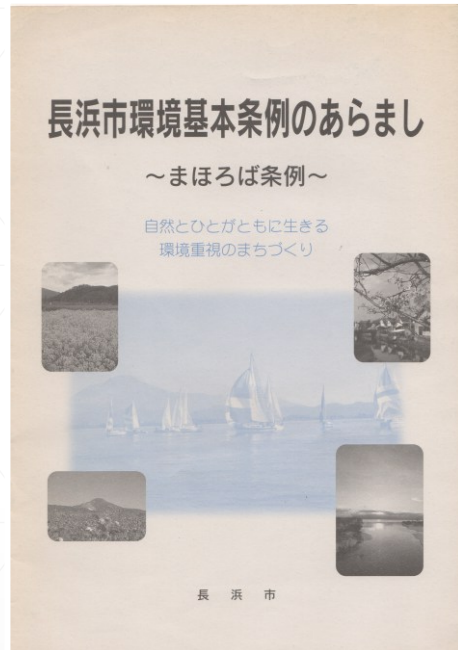


8月15日号



7月15日号

長浜環境基本条例制定 平成11年（1999）



条例の構成	
前文	
第1章 総則	
第1条 目的	
第2条 定義	
第3条 基本的な考え方	
第4条 市の役割と責務	
第5条 市民の役割と責務	
第6条 事業者の役割と責務	
第7条 滞在者の役割と協力	
第2章 基本的な方針	
第8条 環境施策の基本方針	
第3章 実現のための方策	
第9条 市、市民、事業者等の協働・連携	
第10条 広域的連携と国際協力	
第11条 環境基本計画	
第12条 環境基本計画との整合	
第13条 環境配慮指針	
第14条 年次報告	
第4章 推進のための施策	
第15条 環境学習の推進等	
第16条 環境情報の収集、提供	
第17条 経済的措置等	
第18条 自主的な環境管理の促進	
第19条 公共施設の整備等	
第20条 環境にやさしい日	
第21条 監視体制の整備	
第5章 環境審議会	
第22条 環境審議会	
第6章 雑則	
第23条 推進と調整体制の整備	
第24条 委任	
付則	

平成11年（1999）

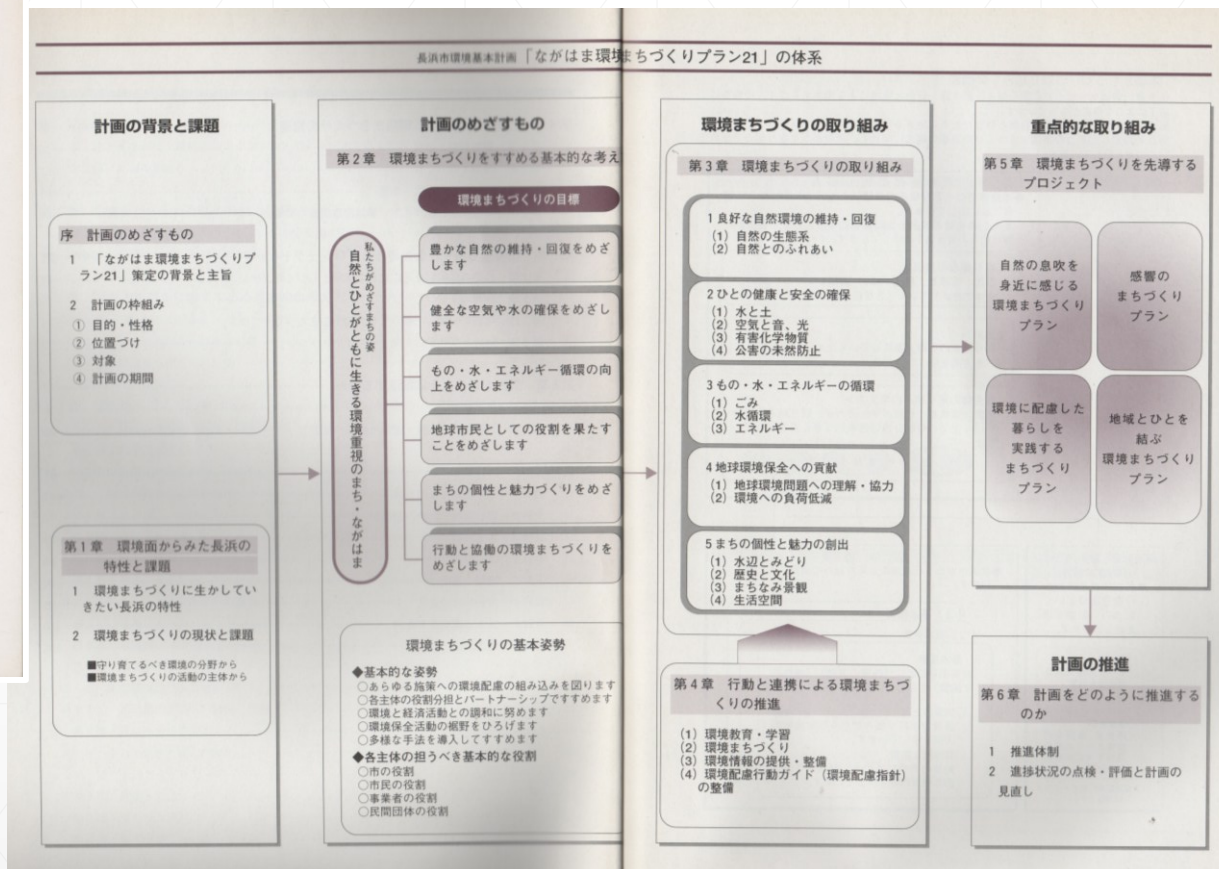
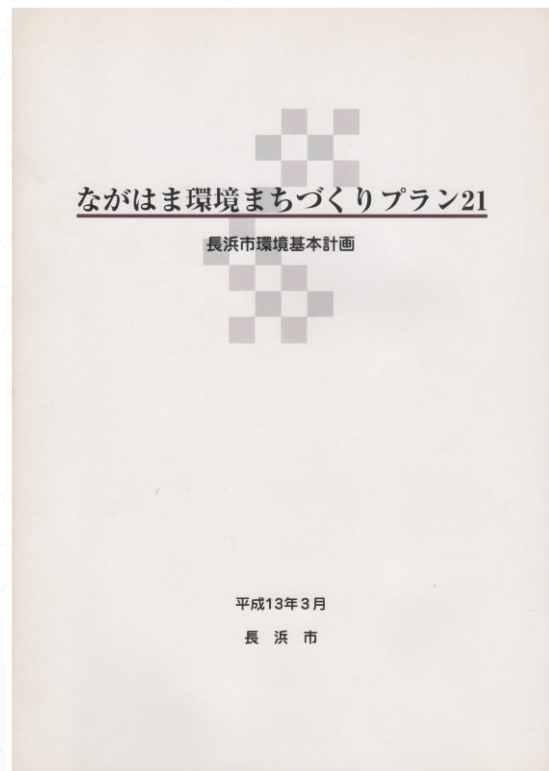
次代へつなぐ道しるべ

毎日の良い環境の中で暮らしたい。それは市民みんなの願いです。しかし、私たちの暮

東に伊吹山、西には琵琶湖、長浜市は、豊かな自然に恵まれ

平成11年3月号

長浜市環境基本計画策定 平成13年（2001）



平成13年（2001）

「なごはま環境まちづくり」

「なごはま環境まちづくり」は、長浜市環境基本計画（平成11年3月策定）を基本とし、自然環境・社会環境・文化環境の3つの分野からなる。この計画は、市民生活の質を向上させ、持続可能なまちづくりを実現するための基本となる。以下、各分野の具体的な取り組みを紹介する。

環境まちづくりの基本姿勢

- 自然環境の保全と活用
- 社会環境の整備と向上
- 文化環境の創造と発信

環境まちづくりを推進する基本姿勢

- 自然環境の保全と活用
- 社会環境の整備と向上
- 文化環境の創造と発信

環境まちづくりの取組

- 自然環境の保全と活用
- 社会環境の整備と向上
- 文化環境の創造と発信

環境まちづくりの推進体制

- 自然環境の保全と活用
- 社会環境の整備と向上
- 文化環境の創造と発信

「なごはま環境まちづくり」

「なごはま環境まちづくり」は、長浜市環境基本計画（平成11年3月策定）を基本とし、自然環境・社会環境・文化環境の3つの分野からなる。この計画は、市民生活の質を向上させ、持続可能なまちづくりを実現するための基本となる。以下、各分野の具体的な取り組みを紹介する。

環境まちづくりの取組

- 自然環境の保全と活用
- 社会環境の整備と向上
- 文化環境の創造と発信

環境まちづくりの推進体制

- 自然環境の保全と活用
- 社会環境の整備と向上
- 文化環境の創造と発信

環境まちづくりの推進体制

- 自然環境の保全と活用
- 社会環境の整備と向上
- 文化環境の創造と発信

「なごはま環境まちづくり」

「なごはま環境まちづくり」は、長浜市環境基本計画（平成11年3月策定）を基本とし、自然環境・社会環境・文化環境の3つの分野からなる。この計画は、市民生活の質を向上させ、持続可能なまちづくりを実現するための基本となる。以下、各分野の具体的な取り組みを紹介する。

環境まちづくりの取組

- 自然環境の保全と活用
- 社会環境の整備と向上
- 文化環境の創造と発信

環境まちづくりの推進体制

- 自然環境の保全と活用
- 社会環境の整備と向上
- 文化環境の創造と発信

環境まちづくりの推進体制

- 自然環境の保全と活用
- 社会環境の整備と向上
- 文化環境の創造と発信

2001年2月号

2001年6月号

平成15年 (2003)

川の中を のぞいてごらん

楽しそうに川で遊ぶ子どもたち。
川は子どもたちだけでなく、私たち大人にも安らぎや癒しを与えてくれます。
自然があふれる川を残していくために、
今、私たちはどうしていかなければいけないのでしょうか。

みなさんは、
川のどんなところが好きですか？
きれいな水、せせらぎ、水の冷たさ、風景、そこに住む魚や生き物など……

また、どうしたら子どもたちに
自然があふれる川を残していける
のか。
市内で取り組まれている事例を
参考に考えていきましょう。

地域みんな で続けること

多くの人が自然あふれる川を思い浮かべ、川に安らぎや癒しを感じるのではないのでしょうか。
同時に、川の水は、飲み水などの生活用水のほかにも農業・産業用水としても使われ、私たちの生活には欠かせない存在です。
その大切な川をこれからどうしていけばいいのでしょうか。

市街地の中心を流れる米川をもつとみなさんが憩える川にと、流域7つの自治会が一緒になって、約20年間、支流の清掃を続けている米川支流環境づくり協議会。昔は小鮎釣りができたほどきれいだっただけが、ヘドロや悪臭で見えないうつろいになったのをなんとかし、ようとう始まったのが、きつかけ、年間5～6回の清掃を続けておられます。

米川支流環境づくり協議会
服部 和吉さん

「私自身、生まれてからずっと米川と見てきて、流域の憩いの場であって、地域の憩いの場であって、思いに思っています。
その米川がずっと憩いの場であってほしいという想いもあって、多くの人が協力してもらいながら今まで続けてきました。大切なのは地域のみんなです」と続けること。そして自分のまちの川をみんなに見てもらおう意識を持つことなのではないでしょうか。川を大切にしている活動の輪がどんどん広がっていきつづけていますね。

川を知ること

七条町では、地域の川をホタルの住みやすい川にするため、もつと川のことを知ろうと、子どもたちといっしょになって、川の水质調査を始められています。

米川支流の河川清掃

川の水質調査
(七条町)

広報ながはま 2003年7月

2003 7 (平成15年) No.636

広報 **ながはま** 毎月1日発行

あつザリガニだ!!

近くの川にも生き物がいっぱい
自然あふれる川を残そう

自然あふれる川を残そう…2p～5p
6月市議会から…6p・7p
長瀬市功労者・特別表彰者のみなさん…8p
地域経済活性化対策 自宅のリフォームで最高10万円の補助金を交付…9p
乳幼児児童養育費助成制度を3月1日から拡充…10p・11p
花野園川わくわく湖北…12p・13p
夏休み特集…24・25p

主な内容

(平成15年6月1日現在) 人口 61,963人 男 30,323人 女 31,640人 世帯数 21,877
動き (5月までの集計) 転入 331人 転出 31人

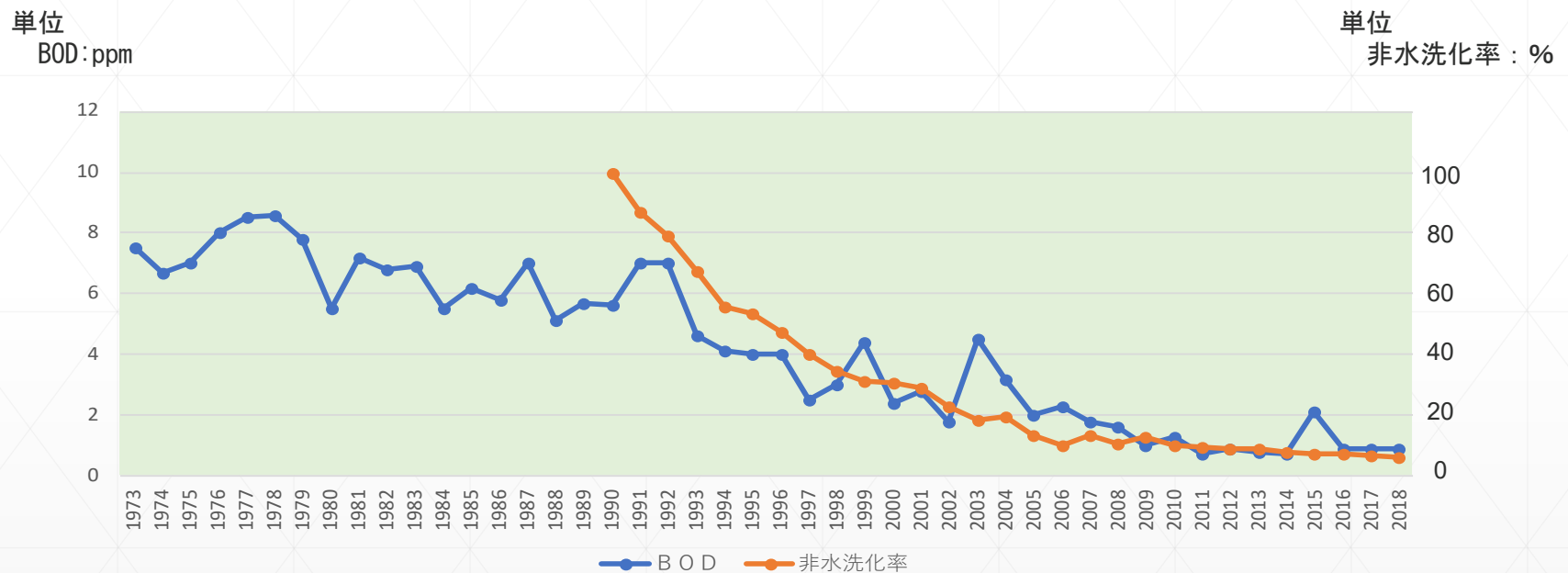
7月1日号

平成17年（2005）

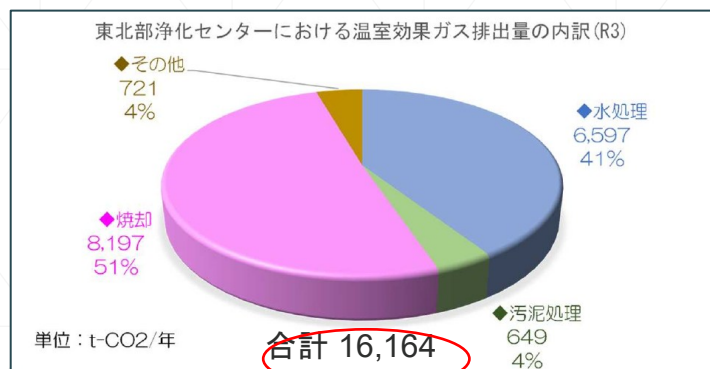


BODと下水道の非水洗化率

BODのグラフに下水道の非水洗化率のグラフを重ねて見ました。
非水洗化率 = 100 - 水洗化率



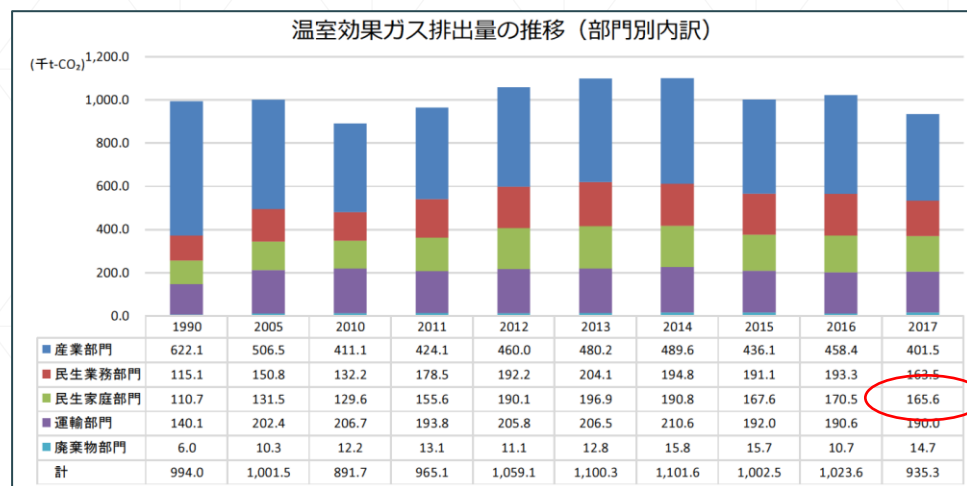
下水処理から排出される温室効果ガス



(R3年度末現在)

項 目	内 容
位 置	彦根市松原町および米原市磯地先
処 理 場 面 積	約46.7 ha
処 理 区 域 面 積	10,106.8 ha
処 理 対 象 人 口	275,013 人
下 水 排 除 方 式	分流式
水処理方法	B系列 凝集剤添加ステップ流入式多段階硝化脱窒法 +急速ろ過法 A系列（建設中） 凝集剤添加ステップ流入式多段階硝化脱窒型膜分離活性汚泥法
処 理 能 力 （ 日 最 大 ）	120,750 m ³ /日
流 入 水 量 （ 日 平 均 ）	102,699 m ³ /日
汚 泥 処 理 方 法	濃縮→脱水→焼却→焼却灰（埋立処分）
発 生 汚 泥 量 （ 脱 水 ケー キ ）	69.4 t/日

令和5年6月7日令和5年度下水道審議会
第11回資源・エネルギー・新技術部会【説明資料】
「東北部浄化センターの汚泥処理方法の基本方針について」より



令和3年3月 第2次長浜市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）より

◇東北部浄化センターの温室効果ガス排出量のうち長浜市分

$$16,164\text{t-CO}_2 \times \frac{90,544\text{人}}{275,013\text{人}} = 5,321.76\text{t-CO}_2$$

※令和3年度

長浜市公共下水道事業会計決算書より

◇2017年度の長浜市温室効果ガス排出量（民生家庭部門）と東北部浄化センターの温室効果ガス排出量のうち長浜市分との比較

$$5,321.76\text{t-CO}_2 \div (165.6 \times 1,000) \text{ t-CO}_2 = 3.21\%$$

水辺の生き物調査 「川で学ぼう」

2023年8月20日たたら橋付近の米川で
実施された生き物観察会の様子



出典(参考文献) など

長浜市二十五年史 S42年4月 長浜市役所
長浜市地図情報サービス「ながはまっふ」
1979／長浜市勢要覧 S52年2月 長浜市
長浜市の環境と公害 S56年度版(1981)、S61年度版～H5年度版 長浜市
長浜市環境年次報告書 H13年度版～R2年度版 長浜市
長浜市生活排水対策推進計画 H4年3月 長浜市
長浜市統計書 R3年度版 長浜市
広報ながはま S46年～H20年 長浜市
よみがえれ米川支流－米支協この2年の歩み－ S61年3月 米川支流環境づくり協議会
京都新聞「県民版」S60年4月
身近な環境づくり－環境家計簿と環境カルテ－ S61年9月 盛岡通著
生活世界の環境学－琵琶湖からのメッセージ－ H7年5月 嘉田由紀子著
長浜市史第5巻 巻報 H13年3月 長浜市
朝日新聞「京町3丁目」 H1年6月
米川で蛍を愛でる会 スライド
アメニティニュース VOL.8 S63年9月 長浜市
第2回 米川フォーラム 案内 R5年11月 長浜まちなか地域づくり連合会
長浜市環境基本条例のあらまし H11年7月 長浜市
ながはま環境まちづくりプラン21 長浜市環境基本計画 H13年3月 長浜市
県下水道審議会 資源・エネルギー・新技術部会 東北部浄化センターの汚泥処理方法の基本方針について R5年6月 滋賀県
第2次長浜市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）R3年3月 長浜市

ご視聴ありがとうございました。
松居 弘次